



コペンハーゲン通信 9

当会事務局職員が、昨年1月より在デンマーク日本大使館に出向しています。「EUの中で最も競争力のある経済」（世界経済フォーラム）との評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。

デンマーク王国 DATA

人口545万人（≒兵庫県）、面積4.3万平方キロ（≒九州）、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「EU内で最も競争力のある経済」「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

デンマークの教育事情 (下)

齋藤 弘憲
在デンマーク日本大使館一等書記官
(経済同友会事務局より出向)



(前号から続く)

◆大学生は授業料無料で生活補助も国から支給

高等教育については、①全大学が国立で授業料は無料、さらに学生に生活補助（自宅通学生で月6万円、下宿生で月12万円程度）が支給される、②大学入学・卒業に時間をかけ（途中で働いたり、海外を放浪するなど）、大卒時に30歳を超えていることも珍しくない、といった特徴が挙げられます。この高等教育についても、近年、大きな改革が進められてきました。



コペンハーゲン大学学生寮 (©Christian Svane Kolding)

◆大学のガバナンスは学外理事主体型に

まず、2003年にガバナンス改革が実施され、最高意思決定機関である理事会は過半数以上が学外理事となり、議長も学外理事から選任されることになりました（従来の意思決定機関は、教職員代表などの内部関係者が主体）。新たな理事会は学長を、学長は学部長を、学部長は学科長を雇用・解任する権限を有し、大学設置法には学長の要件として「教育・研究の実績に加え、マネジメントの経験が豊富であること」と明記されています。

続いて、2006年発表の「グローバル化戦略」において「世界トップレベルの高等教育」という目標が掲げられ、①大学統合・再編、②競争的研究資金の拡充などの諸改革が実施されました。

◆伝統の「フォルケホイスコーレ」

このように、初等教育から高等教育まで改革の

波が押し寄せる中で、古き良き伝統も大切に残されているのがデンマークの特長です。そのひとつに「フォルケホイスコーレ（直訳すると『国民の高等学校』）」という教育機関があります。

これは、19世紀に度重なる戦争で荒廃したデンマークにおいて、「デンマーク復興の父」と呼ばれる教育者グルントヴィが提唱したフリースクールです。彼は、国の復興のためには青年一特に当時は農村の青年一を啓蒙すること、そして「生きた言葉による教育＝全人格的な教育」が必要だと提唱し、教員と生徒が共同生活し、対話や協働の中から学びあう学校を設立しました。

このような教育理念は広く共鳴され、自由なカリキュラムと誰でもいつでも学べる学校として、現在では国内に約100校存在し、世界各国の留学生も惹きつけるユニークな教育機関として知られています。



英語で授業を行うフォルケホイスコーレもあり、35カ国から生徒が集まる。

◆生涯教育の伝統はキャリア教育にも

「生涯いつでも学べる」という伝統は、現代のキャリア教育の中にもしっかりと根付いています。労働市場の流動性が高く、かつ失業給付も充実しているというデンマーク特有の雇用制度（2007年9月号参照）の中で、人々には急速な技術進歩や経営環境の激変に対応し、常にキャリアアップや再チャレンジを求めて学び続ける機会が開かれているのです。